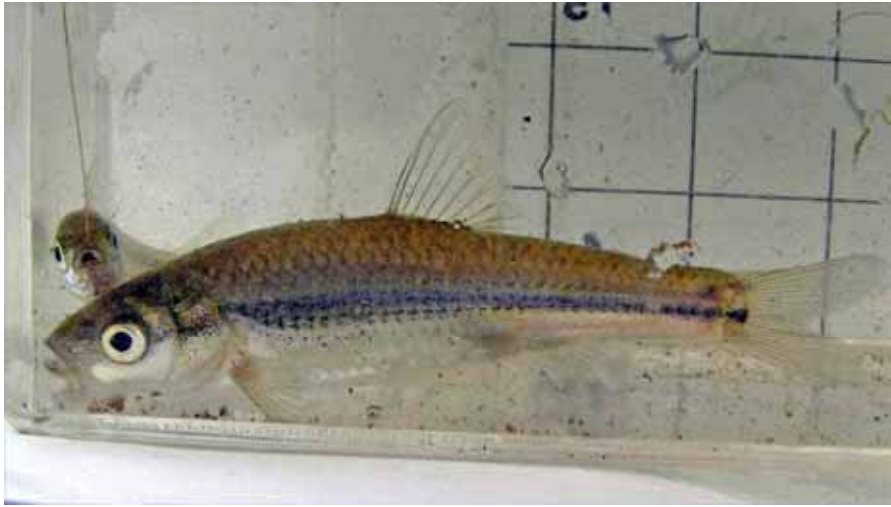


種名	<u>タ モ ロ コ</u> <u>Gnathopogon elongatus elongatus</u>
	
分類	コイ科バルブス亜科タモロコ属
俗称	カキバヤ(静岡)、スジモロコ(大阪)、ミゾバエ(中国)、ジモロコ(滋賀)
形態的な特徴	形態はややずんぐりとした紡錘型で吻は丸く口ひげが一對あり、体側に黒色縦条がある。産卵期でも婚姻色は目立たないが追星がでる。全長は 12cm ほどになる。
分布	静岡・新潟県以西の本州、四国、宮崎・鹿児島両県を除く九州が天然分布のようだが、近年は関東・東北両地方にも分布を広げている。
繁殖行動	産卵期は4～7月で、卵は細流や灌漑用水路、水田などの砂底部や水草、抽水植物の根などに産みつけられる。約一年で成熟する。
生息場所	川の中・下流域で流れの緩やかなところやその細流、湖沼、池などの水際植物が生えているようなところに生息する。流れは淀んでいるが常にわずかながらでも流れているようなところに生息する。
食性	エサはやや動物食に偏った雑食性でユスリカ幼虫、イトミミズ、水草などの他、小魚、動物プランクトンなどを食べる。
生息環境への配慮事項	現在も比較的広く分布しているが、水路改修や河川形態の変化にともない各地の生息適地が減少しつつある。しかし、水際植物が繁茂した水路が残っている地域では、その植物の陰に本種が多く見られる。本種が現在生息する水域は河川の中・下流域やその細流、それに繋がる水田脇の用水路などである。これがコンクリート張りの側溝に変わってしまえば本種が好んで生息する淀みや水際植物の根際などが減少してしまい、同時に産卵場も失われることになる。本種の保全には自然護岸の河川形態に近いものが望まれる。
その他	
参考文献： http://www.maff.go.jp/nouson/mizu_midori/menu/main.html を改変	